

教育委員会定例会（平成29年8月）会議録

1 日 時	平成29年8月10日（木）15:00～:16:45
2 場 所	新居浜市庁舎5階 大会議室
3 出 席 者	教 育 長 関 福生 委 員 伊藤 嘉秀 宮内 文久 長野 美和子 近藤 智佳 事務局長 武方 弘行 戦 略 監 榎木 奨悟 総括次長 三沢 清人 次 長 高橋 良光 曾我 幸一 高橋 利光 曾我部 みさ 桑原 一郎 横井 邦明 課 長 高橋 正弥 指導主幹 高須賀 美雪
4 教育長及び 教育委員会事業報告	7月事業報告及び8月事業予定について その他
5 記録者氏名	社会教育課 岡部 文仁
6 会議の概要	< 請 願 > 請 願 第 1 号 教育出版の道徳教科書を採択しないことを求める請願について < 議 案 > 議案第41号 平成30年度使用小学校教科用図書「特別の教科 道徳」の採択について 議案第42号 新居浜市立小学校及び中学校設置条例の一部を改正する条例の議案送付について 議案第43号 新居浜市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則の制定について 議案第44号 新居浜市広瀬歴史記念館運営協議会委員の委嘱又は任命について < 教育長一般報告 > < いじめ、不登校等生徒指導関係 > < その他 > (1) 新居浜市標準学力調査の結果・分析について

<p>関教育長</p>	<p>それでは定刻がまいりましたので、ただ今から平成29年第8回新居浜市教育委員会定例会を開催いたします。</p> <p>本日の会議録署名委員につきましては、長野委員さん、近藤委員さんをお願いいたします。会期は本日限りといたします。</p> <p>平成29年第7回定例会会議録承認は、伊藤委員さん、長野委員さんにご署名をいただいております。</p> <p>それでは、請願の審議に移ります。新居浜市教育委員会会議規則第16条で、請願書の討論及び採決は、請願者が議場から退出した後行うこととなっております。請願第1号「教育出版の道徳教科書を採択しないことを求める請願について」の請願者がいらっしゃいましたら、誠に申し訳ございませんが一度退出いただきますようお願いいたします。</p> <p>7月19日に、教育委員会に請願書が提出されましたので、事前にお配りさせていただきました。事務局から補足説明いたしますので、ご審議のほどよろしく申し上げます。</p>
<p>高橋学校教育課長</p>	<p>補足説明をさせていただきます。</p> <p>請願第1号「教育出版の道徳教科書を採択しないことを求める請願について」でございます。</p> <p>請願書1ページをお目通しください。</p> <p>請願事項は、二項目となっております。一つ目は、「教育出版の道徳教科書を採択し、子どもたちに教え、使わせることは、憲法及び子どもの権利条約に反するので、それを採択しないこと」、二つ目は「道徳教科書を採択する教育委員会（会議）においては、採択する教科書の内容が憲法及び子ども権利条約に反しないことを、当該教科書に即して具体的に説明すること。上記を、保護者・市民らに対し、公開の場で行うこと」でございます。</p> <p>1ページから2ページには、請願の趣旨及び理由、3ページから12ページには、教育出版教科書の内容・特色とその違憲性について、請願者の記載がありますので、お目通しください。</p> <p>御審議よろしく申し上げます。</p>

<p>関教育長</p>	<p>ありがとうございました。それでは、請願第1号について委員さんのご意見をお伺いしたいと思います。意見のある委員さんはお願いいたします。</p> <p>では、長野委員よろしくお願いいたします。</p>
<p>長野委員</p>	<p>請願書を読ませていただき、内容についても考え受け止めさせていただきました。教科書採択に至りましては考えなければいけないことがたくさんあるということを改めて感じているところです。子ども達の使う教科書についてはそれぞれの立場でたくさん意見があり、また子どもの教育に関わることですのでそういった意見はどれも等しく同じように考えて、公平に考えながら採択へといくものだと私自身は考えております。ご意見はご意見としてこの請願を受け止めさせていただきますが、私はただ一つだけの意見を採択するということが不適切ではないかと考えます。</p>
<p>関教育長</p>	<p>他にございませんでしょうか。</p> <p>それでは、請願第1号について、採択するという方は挙手をお願いいたします。</p> <p>(挙手なし)</p> <p>それでは、不採択するという方は挙手をお願いいたします。</p> <p>(全員挙手)</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>では、教科書採択については、ただ今の長野委員のご意見にもありますが、採択権者である教育委員会の判断と責任により適切に行うということから、不採択とさせていただきます。</p> <p>議案審議に先立ちまして、傍聴の皆様には「新居浜市教育委員会傍聴人規則」についてご説明いたします。入場の際に「新居浜市教育委員会傍聴人規則」をお配りしておりますので、ご覧ください</p>

	<p>い。</p> <p>ここで、再確認させていただきますが、第4条で規定しております行為があった場合には、私の責任においてご退場いただくこととなります。その旨ご理解をいただけたらと思います。</p> <p>それでは、ただ今から議案審議に入ります。本日の議案は第41号から44号までの4議案でございます。第44号につきましては人事案件でございますので、新居浜市教育委員会会議規則第15条の規定により、この会の最後に非公開で審議させていただきたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。</p>
委員一同	はい
関教育長	<p>ご異議がないようですので、最後に非公開で審議させていただきます。</p> <p>報道関係の方々は、これ以降は写真撮影及びテレビ収録はご遠慮いただき、着席して傍聴をお願いいたします。ご協力お願いいたします。</p> <p>それでは、議案第41号「平成30年度使用小学校教科用図書「特別の教科 道徳」の採択について」事務局から説明をお願いいたします。</p>
高橋次長	<p>事務局次長の高橋でございます。</p> <p>それではご説明を申し上げます。</p> <p>議案第41号「平成30年度使用小学校教科用図書（「特別の教科 道徳」）の採択について」説明を申し上げます。</p> <p>平成30年度から新居浜市の小学校で使用する教科用図（「特別の教科 道徳」）について採択をいただくということでございます。</p> <p>教科書の採択については、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律（以下、「無償措置法」）第14条及び義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令第15条により、同一の教科書を採択する期間を4年としていることから、小学校教科書については平成26年度採択と同一の教科書、中学</p>

校教科書については平成27年度採択と同一の教科書を使用いたします。

なお、平成27年度に学校教育法施行規則の改正があり、小学校では平成30年度から「道徳」が「特別の教科 道徳」として新たに位置付けられ、検定教科書が導入されることが決定しました。

そのため今年度は、小学校「特別の教科 道徳」の教科書につきまして、教科書採択を行います。

教育委員会の採択に当たりまして、参考資料を取りまとめるため、「教科用図書採択委員会」を設置し、6月13日、7月27日の2回にわたり、協議検討をいただきました。

「教科用図書採択委員会」において、協議検討をいただくための資料として、まず一つは、学校現場の教員の意見を各学校単位にとりまとめ提出しております。各学校全ての教員が、6月16日から別子銅山記念図書館において開催されました「教科書展示会」において、教科用図書を閲覧し、その後、各学校長が各教員の意見を踏まえ、「学校の評価表」を作成し、提出をいただいたものです。

次に、教科用図書採択委員会における協議検討の2つ目の資料として、市内小学校教員の中から3名の調査員を選定し、専門的調査を行い、A(極めて適切)、B(適切)、C(おおむね適切)、D(工夫を要する)の4段階でご意見をいただいております。

3つ目の資料としては、市民の意見をお伺いするというところで、別子銅山記念図書館において開催いたしました「教科書展示会」で、意見箱を設置し、広く市民の皆様からのご意見をいただくというものです。本年度は、教科書の内容や採択に関する市民からのご意見は5件ございました。

これらの資料を基に、「教科用図書採択委員会」が取りまとめ、所見を付け、採択委員会として選定した出版社を◎で、次点となったものを○で示し、教育委員さんのお手元に配付させていただいております。

教科用図書採択委員会で取りまとめをいただきました資料を参考にしていただき、採択をいただきたいと存じます。

お手元議案資料に添付したしております「平成30年度使用小学校教科用図書の調査結果の総括(「特別の教科 道徳」)についてご審議をお願いします。

<p>関教育長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>ただ今、議案について事務局から説明がありましたが、何か内容について質問がございましたらお受けしたいと思います。</p>
<p>伊藤委員</p>	<p>二点ご質問をさせていただきます。今回は道徳の教科だけの教科書採択ということになります。この採択につきましては他の教科と同様に4年に1回ということによろしいでしょうか。</p> <p>それともう一点ですが、これまでは道徳の授業では副読本を使用されておりましたが、その副読本については教科書が使用される以降も使用されるのでしょうか。それとも使用せず教科書だけで授業を行うようになるのでしょうか。</p>
<p>関教育長</p>	<p>ただ今の2つの質問について回答をお願いいたします。</p>
<p>高橋次長</p>	<p>事務局次長高橋でございます。</p> <p>まず、4年間そのまま使用ということでございまして、今回一教科のみの採択でございます。次の4年後も一教科のみということで、現在のところそのような予定でございます。</p> <p>それから、副読本でございますが、今回教科書が採択されますとその教科書を中心として子ども達は勉強してまいります。教科書だけ使用するというものではございません。</p>
<p>高須賀指導主幹</p>	<p>事務局の高須賀です。補足で説明させていただきます。</p> <p>現在使われております副読本は教科書として導入されますので副読本としては使用しないこととなります。</p> <p>採択ですが、今年度は「特別の教科 道徳」を採択していただきますので同じように4年ごととなります。</p>
<p>関教育長</p>	<p>よろしいでしょうか。</p>
<p>伊藤委員</p>	<p>はい。</p>
<p>関教育長</p>	<p>他に質問はございませんでしょうか。</p> <p>それでは、皆さんから色々ご意見を伺いたいと思います。皆さんの意見をお伺いしたうえで採択に向けて段階を踏んでいきます。</p>

伊藤委員	<p>いと考えております。伊藤委員からお願いできますでしょうか。</p> <p>今回採択にあたりまして全ての出版社の教科書を拝見させていただきました。1年生から6年生までの教科書を拝見させていただき、やはり読めば読むほど道徳の授業というものは本当に大切なのだなという実感をいたしました。そのうえで、どの出版社にも私が感じたのは、高学年になればなるほど非常に遜色のつけがたい質の良い教材が使われているということです。なかには、読んでいて涙を誘われるような、感動的な教材もございました。そういった面で今回非常に良い教科書ができているなという実感をいたしております。</p> <p>私自身が全体を通して感じたことは、出版社によって違いが出てくるのは低学年の教科書であるということです。特に一年生については道徳という授業自体初めて受けますので、一年生がどの教科書であれば道徳を好きになってくれるか、それともあまり好きではないと思われてしまうか、そういった観点からも見させていただきました。そういうなかで、子ども目線の教材で非常に分かりやすく、教材の最初に今の自分を見つめて自分の立ち位置というものをしっかり書かせてから道徳の授業に入る、学研教育みらい社が特に良い教科書ではないかと感じました。</p> <p>この学研教育みらいの教科書は、あいさつから始まり一つ一つの単元が子どもの成長に必要な中身を丁寧に分かり易く学べるようになっているように感じます。またストーリーは、内容の深いものがあり、非常に子どもの目線で書かれていて、道徳の授業を本当に好きになってくれたらいいな、ということを感じました。</p> <p>そういった点で、私は学研教育みらい社を採択したいと考えております。</p>
関教育長	<p>ありがとうございます。かなり深い部分までご意見をいただいたかと思えます。</p> <p>では、次に宮内委員さんお願いいたします。</p>
宮内委員	<p>宮内です。</p> <p>教科書は伊藤委員さんと同じく全て見たのですが、最初に一つ</p>

	<p>学校の先生にお願いしたいことがございます。</p> <p>「教科書で」教えるのか「教科書を」教えるのか、それは学校の先生の力が問われるところですが、様々な教科においてあまりにも「教科書を」教えるという方に手段が置かれているように思います。先生方には「教科書で」教えていただき、色々と膨らます力をつけるように努力していただければと思います。教科書が決まったのだからこの教科書から1ページも1行も離れない、というのではなく、「教科書で」教えて子ども達のこれから先の色々な伸びゆく力を、ぜひ育てていただきたいと思います。</p> <p>さて、今回の道徳ですが、先に結論を申します。私は東京書籍を推薦いたします。</p> <p>そのなかで私が懸念しているのが、道徳と国語はどこか違うのだろうか、道徳の教科書と定めてしまうと、まるで国語の読解力を問うのと同じで、先生が要求している答えはこれかな、と子どもが簡単に答えをだすことに走りはしないか、ということです。あくまでも道徳では自分の考える力、人間としてどう在るのが人間らしいのかということを考えること、をぜひ教えていただきたいと思っております。</p> <p>そうすると、国語とは違うような教科書がいいのではないかと、思い、東京書籍にいたしました。その理由としては、東京書籍は非常に静かな雰囲気の本に接することができるからです。確かに他の教科書の中には、非常にレイアウトや絵がきれいなものもあったのですが、逆に私は、道徳は国語の読解力を問うものではない、というところを求めたいので、静かな雰囲気を読める東京書籍を推薦させていただきたいと思います。</p> <p>以上です。</p> <p>では、次に長野委員お願いいたします。</p> <p>長野です。</p> <p>結論からいいますと私は東京書籍を選択したいと思います。</p> <p>理由としては二つあります。その一つは教科書の在り方そのものです。8社読ませていただきまして、先ほども話に出ましたが内容についてはどの出版社の教材も本当に素晴らしくて、道徳ってこんなに良いお話がたくさんあったのだなと、長いこと携わっていながらもそう思うほどに、素晴らしかったです。</p>
<p>関教育長</p>	
<p>長野委員</p>	

先ほど宮内委員さんのお話にもあったように、私自身も小学校で道徳を教えてきたその経験から考えますと、やはり道徳というものは他の教科と違って、心を耕す、人間の形成に直接関わっていく、決して初めから一つの答えがあるわけではない、それぞれが主体的に考えながら気付いていくもので、その幅というものがすごく大事になってくると思います。

総じて今回の教科書を見ますと、大変親切で、親切すぎるというくらいたくさん展開の手順であったり、ヒントであったり視点であったり、そういうものがたくさん書かれています。教科書にないところは、ノートの方にそれがきっちりと書かれているので、そうなると考え方がひとつの型にはまってしまって、流れに乗ってしまって、それ以外のところが出てこないのではないかと、色々な方向に広がっていかないのではないかと、そういった懸念を感じました。

そういう中で東京書籍はヒント、指し示すものが非常にシンプルでさりげなく書かれています。これはある意味先生方の力量が試されるころではありますが、その数少ない指し示されたものをどのように子どもたちに投げ掛けていって、どう広げていくのか、それはそれぞれの先生が今目の前にいるその子ども達に対して考えていくことなので、やはりその幅があるというところを大切にしたいなと思います。

もう一点は、教科書というのは子どもと学校だけの問題では決してないということです。社会全体が未来を担う子ども達の教育にとっても関心を持っており、また持っていたらなければいけないことだと思っております。当然子ども達の使う教科書につきましても、先生だけが、学校だけが、あるいは教育委員会だけが、というふうな狭い範囲で考えるのではなく、そこに保護者や、地域の方、一般社会の方のご意見をいただきながら選んでいく、それが今からの教科書の大事にしていかなければいけないことではないかと思っております。今回調査員の先生方が出された調査の結果に対して採択委員会でも随分と議論を重ねて一つの結論を出していただきました。これはこれで私は尊重したいと思っております。それもあつて東京書籍を採択したらどうかと思っております。

以上です。

<p>関教育長</p>	<p>ありがとうございます。続いて近藤委員お願いいたします。</p>
<p>近藤委員</p>	<p>近藤です。</p> <p>私も今回全ての教科書を見させていただいた中で、この教科書を来年から子ども達を使うとしたらどうだろう、という親の視点で見る事をまず考えました。その中で、学研教育みらいの教科書を読んだときに、小さいころから子ども達に見せている非常に馴染みのあるスタイルだなと思いました。今は色々な本がありますが、子どもが喜び、嬉しいと思う、教科書も4月にもらった時にどんなことが書いてあるのかなと思って、それをきっかけに学校を好きになってもらえる、そういったことを親は願わずにはられないなと思いました。</p> <p>また学研教育みらいの教科書は絵が子どもにとって想像を膨らませるのに非常に良いのではないかなと思いました。一年生で初めて学校に入って、みんなが字をよく読めるわけではないので、伊藤委員さんもおっしゃいましたが文字だけではなく絵からも思いを馳せ、本当に自分に大事なことは何か、先生や友達と他者との関係を考えていく時にどうしていったらよいのかということを考える時間をたっぷりとれる教科書であるのが学研教育みらい社ではないかなと思います。ただ考える時間をたっぷりとるためには、先生方が教科書でマルですかバツですか、ここでこの人はどう思ったのですか、こう思ったでしょ、というような誘導する授業ではなく、彼らが自分だったらどうだろう、と思える時間がたくさんとれる、そういう授業を展開していく、そのためにこの学研教育みらいの教科書が役に立つのではないかなと思います、今回この教科書が良いなと思いました。</p> <p>以上です。</p>
<p>関教育長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>私が今結論を言ってしまうと、それで多数決になってしまうので、もう少しみなさんと意見を確認し合いながら深めたいと思います。</p> <p>私の場合は、当初は光村図書に対して興味関心を抱いておりました。内容的に色々な分野をクロスオーバーさせるような、串刺し的な教材作成ができていたのは光村図書ではないかなと思います。現在カリキュラムマネジメントみたいなかたちで、色々</p>

<p>長野委員</p>	<p>な科目をつなげることによって子どもたちの考える力を高めていくというような方向もあると思うので、道徳の授業の中で子ども達の思考を働かせるような場づくりが必要かな、と当初は考えておりました。しかし、その後色々考えていくと、まず子どもが興味関心を抱かなければその中に入っていこうとしても、門前払いを食らってしまうこともあるのかもしれないという思いも出てきました。</p> <p>それと今日色々意見伺うと、「教科書で」教えるのか「教科書を」教えるのか、そここのところの使い方によって教科書はコントロールをするための道具にもなってしまう、そういう危険性があることも教えていただいたような気がします。そのなかで、もう少し色々な議論を尽くしたほうがいいかなと思うのですが、例えば長野委員については今まで現場で直接教科書を使ってこられたと思うのですが、教師の立場での教科書の利用方法など、もしありましたらご教授いただければありがたいのですが、ご意見伺わせてもらえますでしょうか。</p> <p>宮内委員の言われるとおりで、内容を教えるのか、どう教えるのか、を大事にしなければいけない、道徳の場合は特にそうであると思います。それぞれの出版社の教材はそここのところも考えながら、さらにその向こうにあるもの、あるいはそれを通してどう考えるかというところ、も捉えることができていると思います。しかし、その辺りの考え方はそれぞれたくさんあると思うのですが、私自身はあまり間口を絞ってしまうというのはどうしても気になります。発問が多ければ多いほど、あるいは指示するものが多ければ多いほど、そちらの方に流れていくということも考えられますし、道徳の場合は結論というものがないので、それぞれがどう受け止めて、どう考えるかというところを大事にしていかなければいけない教科になると思います。どの教科書を使うにしろ先生方がそれをどう子ども達に提示していくか、学ぶのは子ども達ですが教師もこの道徳の授業を通して、一緒に学んで一緒に育っていくことができる教科書を選ばなくてはいけないと思います。そして、なるべくたくさん教師の裁量があるような、自分で考えて工夫していける部分がたくさんあるような、そういう教科書を採択していかなければいけないのではないかなと思います。</p>
-------------	---

<p>伊藤委員</p>	<p>他にご意見ありますでしょうか。</p> <p>長野委員がおっしゃるように、間口を狭くするという意味でいうと、その辺りは非常に考えなくてはいけないことであると思います。</p> <p>私も今回の教科書を見させていただいて、これはどうなのだろうという形状的な点に対する疑問が二つありました。それは教科書とノート、教科書と副読本のように、2冊形式の出版社について、これは2冊必要なのかということです。2冊目のノートを見たときに、本当は子どもたちに意見をたくさん書かせてあげたいのに、マス目になっているために字数が限られている、あるいは2冊目の内容が意見を誘導しているとまでは言いませんが、それに近いものがあったような気がしました。そういった意味で教科書とノートの2冊必要なのかどうか疑問に思います。</p> <p>おそらく、学校訪問で私達は授業を拝見しますが、子ども達は先生の目を見ながら先生のお話を聞いて、そして板書も見て、教科書とノート、さらにプリントが配られればプリントも見る、果たして1年生でこれができるのかな、集中したことができるのかな、と感じました。</p> <p>ですから、できれば私は1冊であって欲しいと思います。その補充として長野委員がおっしゃるように先生方のプリントであるとか、そういったもので先生方が授業を采配していけるような構成が必要ではないかなと思いました。</p> <p>それともう一つ形状的なことで思ったのが、教材を読んだ後で質問が必要なのかどうかということです。中には質問と一緒に挿絵の女の子と男の子が吹き出しの会話の中で一つ答えまで言っているという教材もございました。これだと本当は自由に発想してもらわなければいけないのに、その時間が取れないままその答えに行ってしまうので、本当に窮屈な教科書であり、形状からしてよろしくないのではないかと思います。</p> <p>ただ、設問が必要かどうかという点で考えた時には、誘導的ではない設問は必要であると思いました。なぜかと言いますと、先ほどから3社の話しか出ておらず大変恐縮なのですが、比較をさせていただきますと、東京書籍は良い教材を使われておりますが、質問がございません。教材を読んだだけになり、子ども達が教科書を読んで自主的に勉強しようということ考えた時にも</p>
-------------	---

	<p>読み切りになってしまいます。初めて道徳を習う一年生のことを考えた時に、それで良いのかなと私は疑問を感じました。その点、学研教育みらい社はその辺りが非常に配慮されており、誘導的ではない質問ができているな、と思いました。</p> <p>それと、視覚になるのですが、東京書籍の挿絵については、個人的に私が小学校の頃から読んでいた教科書の挿絵のように思いました。少し表情が硬いといいますか、今の時代に読んでいる本と比較しますと、本当に教科書教科書しているなと感じました。笑っているのか笑っていないのかどちらか分からない挿絵もありましたし、非常に硬いような感じがいたしました。それに比較して、近藤委員も言われておりましたが、学研教育みらい社は文字でもストーリーをちゃんと読めますし、挿絵だけでも読んでいけるような作りができていて、そういった面では、子どもがわくわくするような、子どもの心が入っていきやすい教科書になっているのではないかなと思いました。これからの教科書はこういう教科書である方がいいのではないかなと思います。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>他にご意見ございませんか。</p> <p>話を聞きながら、少し世代の違いというものを感じております。やはり私の中にも道徳というものに対しての一つのイメージがございまして、それがずっと残って今の考えになっております。もちろん皆さんもそうだと思うのですが、それぞれの育った環境、時代、その中で考え教科書を選ばれているのだなと感じます。</p> <p>挿絵等につきましては、学研教育みらいの挿絵は色も華やかで、表情もはっきりして、今の子ども達が普段目にしているものがそのままそこに出ているように思いました。しかし少し違う考え方をすると、道徳という教科で学習する時に、それで良いのかなと私自身は思いました。確かに東京書籍さんは少し地味といいますか、よく言えば落ち着いているという印象はありますが、学習として学ぶ時に、普段自分達と接しているものとは違う場面で真剣に考えていくという取組方も必要なのではないかと思います。</p> <p>それから発問につきましては、当初は発問というかたちではあ</p>
関教育長	
長野委員	

	<p>りませんけれども、どの教材にも2つずつくらい考える、読む視点のようなものが書かれており、私はそれがすごく大事だと思いました。資料というのはあくまでも資料で、その資料のことを考えるのではなく、それを通して考えさせるものなので、それが資料を通して考えるべきことのヒントの役割になっていたと思います。そういうことを考えながら最後にもう一度考えてみよう、という工夫なのではないかなと思いますので、あのようなかたちで投げ掛けて、授業を進めていく方が道徳として考えていけないかなと思います。今の子ども達にとって退屈にならないような授業の工夫は、挿絵とか表記だけでなくこれは教師の力でどんどん工夫していける部分だろうと思います。</p> <p>もう一つは小学校の入り口である低学年、一年生を大事にするというのは、本当にそのとおりであると思います。子ども達が最初に小学校に入った時にどういう学習、特に道徳のような何か分からない教科をどう取り組むかというのは非常に大切だと思います。逆を言えば、出口である高学年、5、6年生になっていった時に子ども達がその中の育ってきた部分をどのように考えていくのかというのは、より大きな自分達の考えを自由に言える、自由に広げていけるスペースのある教材の方が子どもにとっては必要なのではないかなと思います。常に指示があり、発問があり、方向は決めてというような流れでいくのではなく、そのことを通して自分はどう考えるかという力を学年をおって少しずつ培って行って、そして次の段階に進んでいくという。やはりそこには先生の方が大きく影響すると思いますが、それも大切なことで、そういう余裕、余地のある教科書がよいのではないかと思います。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>伊藤委員のおっしゃることは非常によく分かり、目を引き付けるという点では学研教育みらいの教科書は、暇があったら開けてみようかな、開けたら楽しいな、という雰囲気があるのは確かで、本当に素晴らしい教科書だと思います。ただ道徳ということを考えると静かに考える時間があるのかなと思います、私は逆に、静かな教科書を選んだつもりです。おそらく道徳に関してはその人の生き方や色々なことで、答えが様々に変わってきても、それはそれ</p>
関教育長	
宮内委員	

<p>関教育長</p> <p>近藤委員</p>	<p>でいいだろうと考えておりますので、その時の雰囲気の中で先生が質問の仕方を変えてみてもいいだろうし、みんなで思ったことを考えるのもいいだろうと思います。ただこれは国語とは違うのだからみんなが同じ答えを出さなくてもいいし、この時この人はどんな気持ちだったのでしょうか、という質問はしてもいいが、答えはこうなのですよ、というのは人によって違うと思うので、少し曖昧さを残した教科書がいいのかなと思います、昔から馴染みのあるような東京書籍の教科書を採択したいと考えました。学研教育みらい社の教科書も非常に良いものですが、それぞれ求めるところが違うので評価が変わったのだらうと思います。どちらにしても非常に良い教科書であることは間違いないと思います。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>今ジェネレーションギャップ的なお話がありましたが、確かに東京書籍は私の子ども達も使っているのだから馴染みもありますし、静かに考えるという意味ではなるほど、と思い今お話しを聞かせてもらっていました。</p> <p>しかし、実際学校に行って参観日等で道徳の授業を見た時に、現場の先生方の時間に追われて何かしら答えを出させないといけないという雰囲気と、子ども達も今この現代に生きていて、何か質問されたらとにかく自分の意見を言わなくてはいけない、何か発言しなくてははいけない、手を挙げて発表しなくてはいけない、そうしなければ評価につながらない、というラッシュアワーのような道徳の授業を目の当たりにすると、現場の先生方も迷いながら授業を展開されているのだらうし、子ども達も小さいながらも一体何を求められて、今自分はどのような発言をして、どのような思いをクラスで共有しないといけないのだらう、と探っている気がします。</p> <p>ですから、どの教科書が良いか悪いかという前に、現場の先生方と子ども達がこれから採択する教科書を使って今後もラッシュアワーのような道徳の授業を35時間やっていくのではなく、答えを出さなくてもいいよ、発表しなくてもいいよ、だけど心の中で静かに色々なことを考えて、一年かけてそれが成長につながっていけば良いのだよ、という授業ができるように先生や大人が発信していかなければいけないのだな、と話を聞いていて思いました。</p>
-------------------------	---

<p>関教育長</p>	<p>長野委員さんお願いします。</p>
<p>長野委員</p>	<p>5人の中で教員経験者は私だけですので、今の近藤委員のお話はなかなか耳の痛い話で、親御さんからはそういうふうに見えるのだなと感じているところです。</p> <p>たくさん授業があつて、それをどんどん消化していかなければいけない中に道徳もありますので、一時間完結型でなんとか最後までやっていこうと、親御さんが来られている場合は特にそのような気持ちが強くなってしまふのだと思います。そして、子ども達もそのような先生の気持ちに応えようと一生懸命急いでくればよいとします。先ほど近藤委員も言われておりましたが、先生方も手探りで迷いながら、子ども達も同じような状況で取り組みます。でも、私は道徳というのはそういう教科ではないかと思ひます。先生も手探りで迷いながら、でもなんとかそれぞれにとって一つの大切なものを子ども達に考えさせていきたい、子ども達も、これは一体何か、と言われて上手く表現することはできなくても、書き表すことができなくても、大事だということが分かつて一緒に学習するという体験ができるものが道徳の授業ではないかと思ひます。</p> <p>国語や算数の授業のようにきちとした答えがなく、気持ちよくすっきりと終われない場面も多々あつたと思ひますが、私自身はそのような授業をむしろ評価します。最後に「きちりと答えが出て良かった」で終わるよりも、みんなが「分からなくて困つた。では、どうすれば良いのだろう」というかたちで終わることが本来の道徳の姿で、そういう姿を大事にしていけるような教科書を考へていかなければいけないのではないかなと思ひておひます。</p>
<p>伊藤委員</p>	<p>長野先生のおっしゃるとおりだと思ひます。子ども達がどんだんのめり込んで考へられる教科書でなくてはいけないと思ひます。ですが、先ほどおっしゃつていた東京書籍の形式では、教材に入る前に質問があり、読む前からこれは教科書である、というやうな感覚を覚へてしまうので、子どもが教科書を開くと心を奪われて、これは何だろう、文章を読んでいきたい、先に進みたい、と思わせるやうな教科書がこれからの教科書であるべきだと思ひます。</p>

関教育長

います。ですから、その後何を考えなければいけないのかという質問は、ヒントのような少しステップアップしたものであるべきで、特に道德については、先に質問があって、ここではこういうことを考えるよ、という形式であるべきではないと思います。

どの出版社もイラスト等によって、ここは人との関わりですよ、ここは自然環境ですよ、というようにジャンルは分かるようになってはいますが、質問が先にあるということではなくて、まず教材そのものに心を奪われて、そこにのめり込んで、その教材を全て読んだうえで、その後質問等をヒントにそれについて考えるというのがこれからの本当の教科書ではないのかなと思います。私はその違いは非常に大きいのではないかなと思います。

先ほど質問させていただいた、「教科書で」か「教科書を」かという話になると、今の話を私が伺う中では「教科書で」学ぶのかなという印象を持っております。

しかし、それは同時に学校の先生の力量がストレートに問われるような気がしてなりません。当然道德の指導要領のようなものが今から出てまいりますよね。そういったものを基に先生は自分なりの授業を構築していくような流れになるかと思うのですが、その時に学研教育みらい社のような一定の流れを導いていくようなものを上手くガイドしていくものが良いのか、あるいは素材として提供して料理は先生にお任せする、あるいは子どもさんにお任せするものが良いのか。教科書の王道をいっているのが東京書籍なのだと改めて思うのですが、王道をいくかそれとも革新を求めるか、というところになるのかな、と今の話を聞きながら思うのですが、まだ何かもっと違う切り口がもしあれば、また投げ掛けていただければと思うのですが、どうでしょうか。

もう全て出尽くした状況ですかね。これはどうしても言っておいたうえでみんなて判断をしようという題材はないですか。

それでは、このような流れの中で方向性を示すということで採決を求めたいと思います。今現在、実名が出てきている教科書会社は、私が最初に出した光村は外させていただきまして、東京書籍と学研教育みらい社の2社だと思うのですが、その2社に絞ったかたちでの採択ということでよろしゅうございますか。

<p>委員一同</p> <p>関教育長</p>	<p>はい。</p> <p>それでは、東京書籍が適切な道徳の教科書であるとお判断の方は挙手をお願いいたします。</p> <p>(宮内委員、長野委員挙手)</p> <p>学研教育みらいが適切な道徳の教科書であるとお判断の方は挙手をお願いいたします。</p> <p>(伊藤委員、近藤委員挙手)</p> <p>結局、私が採決せざるを得ないということになるのですが、私は東京書籍を選ばせていただければと思います。</p> <p>それでは、結果といたしまして「特別の教科 道徳」については東京書籍を採用させていただくということによろしいでしょうか。</p>
<p>委員一同</p> <p>関教育長</p> <p>高橋学校教育課長</p>	<p>はい</p> <p>それでは、この後10分ほど休憩をとった後、再開させていただければと思います。</p> <p><休憩></p> <p>それでは、会議を再開いたします。</p> <p>議案第42号「新居浜市立小学校及び中学校設置条例の一部を改正する条例の議案送付について」事務局から説明をお願いいたします。</p> <p>学校教育課 高橋でございます。</p> <p>議案第42号「新居浜市立小学校及び中学校設置条例の一部を改正する条例の議案送付について」ご説明をさせていただきます。</p>

<p>関教育長</p>	<p>議案書の9ページから10ページをお目通しください。今回の改正は、平成30年3月31日をもって若宮小学校を廃校とすることに伴い、本条例のうち、第2条第1号の小学校の名称及び位置を規定した表について「新居浜市立若宮小学校」の項を削るものでございます。これによりまして、新居浜市立の小学校は16校となります。</p> <p>若宮小学校につきましては、児童数の減少が続き、平成29年度から複式学級による学級編成を行わなければならない状況に至ったため、保護者説明会やアンケート、地元との意見交換会等を行い、若宮小学校を廃校として隣接する惣開小学校に統合するというご理解をいただきましたことから、本年2月に開催した教育委員会定例会において若宮小学校の統廃合について審議し、全会一致で方針決定をいただいているところです。</p> <p>なお、この条例は、平成30年4月1日から施行したいと考えております。</p> <p>以上で説明を終わります。</p> <p>ご審議よろしく願いいたします。</p> <p>ただ今の説明で、何かご質問やご意見等はございませんか？</p> <p>それでは、議案第42号について、ご承認いただけます方は挙手をお願いいたします。</p> <p>(全員挙手)</p> <p>ありがとうございました。では、承認とさせていただきます。よろしく願いします。</p>
<p>関教育長</p>	<p>次に、議案第43号「新居浜市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則の制定について」事務局から説明をお願いいたします。</p> <p>学校教育課 高橋でございます。</p> <p>議案第43号「新居浜市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則の制定について」ご説明をさせていただきます。</p>

<p>関教育長</p>	<p>議案書の11ページから12ページをお目通しください。</p> <p>今回の改正は、議案第42号「新居浜市立小学校及び中学校設置条例の一部を改正する条例の議案送付について」で説明いたしましたとおり、平成30年3月31日をもって若宮小学校を廃校とすることに伴い、通学区域に係る規定を見直ししようとするものでございます。改正の内容といたしましては、小学校の通学区域を定めた別表第1中、「惣開町、新田町一丁目、新田町二丁目、新田町三丁目、磯浦町(2番から19番まで)、新居浜乙」を惣開小学校の通学区域に加え、若宮小学校の項を削るとともに、中学校の通学区域を定めた別表第2中、西中学校の通学区域から若宮小学校区を削ろうとするものでございます。</p> <p>なお、この規則は、新居浜市立小学校及び中学校設置条例の一部を改正する条例の施行日と同日の平成30年4月1日から施行したいと考えております。</p> <p>以上で説明を終わります。</p> <p>ご審議よろしくお願いいたします。</p> <p>ただ今の説明で、何かご質問やご意見等はございませんか？</p> <p>それでは、議案第43号について、ご承認いただけます方は挙手をお願いいたします。</p> <p>(全員挙手)</p> <p>ありがとうございました。では、承認とさせていただきます。よろしく申し上げます。</p> <p>次に、私の方から一般報告をさせていただきます。</p> <p>議案書の2ページをご覧ください。</p> <p>7月 9日 マリン村開村式(マリンパーク)</p> <p>14日 中央教育審議会生涯学習分科会 (第86回)(文部科学省)</p> <p>15日 愛媛県市町教育委員会連合会定期総会(八幡浜市)</p> <p>19日 地域教育東予ブロック実行委員会</p> <p>8月 5日 新居浜ユネスコ協会主催『平和の鐘を鳴らそう』事業(イオンモール新居浜)</p>
-------------	--

	<p>6日 東予合唱フェスティバル（市民文化センター）</p> <p>8日 人権同和教育夏季研修会</p> <p>17日 主幹教諭及び教務主任研修会</p> <p>18日 別子中学校寄宿舎建設工事安全祈願祭</p> <p>20日 サマーフェスティバル（マイントピア別子）</p> <p>社会教育課の事業は、</p> <p>7月 3日 平成29年度青少年健全育成標語入賞者表彰式 （青少年センター）</p> <p>6日 教育委員会定例会（第7回）</p> <p>8月10日 教育委員会定例会（第8回）</p> <p>21日 公民館職員研修会（文化センター）</p> <p>学校教育課の事業は、</p> <p>7月 2日 中学校スポーツトップアスリート事業 バレーボール（市民体育館）</p> <p>3日 管理主事・市教委学校訪問（惣開小学校） 管理主事・市教委学校訪問（角野中学校）</p> <p>4日 管理主事・市教委学校訪問（大生院小学校）</p> <p>5日 管理主事・市教委学校訪問（大生院中学校）</p> <p>7日 新居浜市中学校弁論大会（市民文化センター）</p> <p>10日 第1回幼保小連携推進協議会（市庁舎）</p> <p>20日 公立幼稚園、小・中学校第1学期終業式</p> <p>22日 第69回県中学校総合体育大会（～27日）</p> <p>24日 第53回新居浜市小学校水泳記録会 （中萩、新居浜小学校）</p> <p>26日 新規ALT着任〔2人〕</p> <p>27日 NHK学校音楽コンクール小学校の部 （市民文化センター）</p> <p>28日 NHK学校音楽コンクール中学校の部 （市民文化センター）</p> <p>31日 四国中学校総合体育大会壮行式 （市民文化センター）</p> <p>8月 2日 新規ALT着任〔1人〕</p> <p>4日 中学生アメリカ訪問団第1回事前研修会 （市民文化センター）</p>
--	---

	<p>9日 英語キャンプ（大洲青少年交流の家）（～10日）</p> <p>10日 教職員ESD研修会（市民文化センター） 全国中学校体育大会壮行式（ウイメンズプラザ）</p> <p>17日 中学生アメリカ訪問団第2回事前研修会 （市民文化センター）</p> <p>22日 第3回小中学校教頭研修会（市民文化センター）</p> <p>28日 第2回通学路安全対策協議会（市民文化センター）</p> <p>30日 第4回あかがね算数・数学コンテスト （市民文化センター）</p> <p>スポーツ振興課の事業は、</p> <p>7月 1日 トップアスリート事業バレーボール （市民体育館）（～2日）（山本隆弘氏&パナソニック・パンサーズ 小学生約100名、中学生（男子）約70名参加） 新居浜市スポーツ推進委員協議会 川東地区ブロック会</p> <p>3日 新居浜スワローズ 全国大会 （第25回ヤングリーグ選手権大会&第5回ヤングリーグジュニア選手権大会） 出場 市長・教育長報告会（市庁舎大会議室）</p> <p>8日 新居浜市スポーツ推進委員協議会 上部地区ブロック会</p> <p>10日 第2回「ドリーム・ベースボール」説明会 （市庁舎41会議室）</p> <p>12日 中萩JSS 全国大会（第31回全日本男子小学生ソフトボール大会） 出場 市長・教育長報告会 （市庁舎大会議室）</p> <p>17日 「ドリーム・ベースボール」開催状況視察（府中市）</p> <p>18日 新居浜リトルリーグ全国大会（JA共済杯2017全国選抜リトルリーグ野球大会） 出場 市長・教育長報告（市庁舎大会議室）</p> <p>19日 第2回新居浜市民マラソン実行委員会 （市庁舎大会議室）</p> <p>25日 新居浜ジュニアハンドボールクラブ全国大会 （第30回全国小学生ハンドボール記念大会） 出場</p>
--	--

	<p>市長・教育長報告会（市庁舎大会議室）</p> <p>29日 愛媛FCホームゲーム マッチシティ 新居浜市の日（砥部町ニンジニアスタジアム） （vs. ジェフユナイテッド千葉）</p> <p>8月 8日 第3回「ドリーム・ベースボール」説明会 （市庁舎大会議室） 第2回ドリーム・ベースボール実行委員会 （市庁舎大会議室）</p> <p>23日 愛媛マンダリンパイレーツ公式戦（市営野球場） （vs. 高知ファイティングドッグス）</p> <p>文化振興課の事業は、</p> <p>7月 8日 新居浜市市制施行80周年記念事業 「新居浜が生んだジブリのアニメーション作家近藤勝也展」開催 （～9月10日）</p> <p>11日 あかがねミュージアム入館者50万人達成</p> <p>15日 子ども絵画教室（あかがねミュージアム） （講師：宮田翁輔氏 16名参加）</p> <p>16日 子ども絵画教室作品展示（あかがねミュージアム） （～25日）</p> <p>30日 「触れて考える正光山古墳群」（ふるさとラボ） （講師：愛媛大学准教授 吉田広氏）</p> <p>8月 6日 ふるさとラボ絵画教室（ふるさとラボ） （講師：日野功氏）</p> <p>8日 近藤勝也さんによるスペシャルワークショップ （新居浜が生んだジブリのアニメーション作家近藤勝也展 関連事業）</p> <p>20日 歴史講演会「謎とき本能寺の変と四国説」 （市民文化センター）</p> <p>21日 新居浜市市制施行80周年記念事業「10才のわたしとぼく」ワークショップ及び公演（～27日）</p> <p>発達支援課の事業は、</p> <p>7月 1日 第1回特別支援教育研修会（別子銅山記念図書館） （講師：千葉大学教授 富田久枝氏 44名参加）</p> <p>7日 地域発達支援協議会（こども発達支援センター）</p>
--	---

	<p>19日 平成29年度学校生活介助員等研修会 (市民文化センター) (講師:新居浜特別支援学校 教諭 荒木英子氏 104名参加)</p> <p>21日 発達障がい支援者のための実践セミナー (こども発達支援センター、市民文化センター) (~23日) (15名参加 (公開講座:36人))</p> <p>25日 第2回小中学校特別支援教育コーディネーター研 修会兼心理アセスメント教室 (文化振興会館) (~26日) (講師:特別支援教育士 スーパーバ イザー 渡部徹氏)</p> <p>28日 第26回親子手作り教室 (総合福祉センター)</p> <p>31日 特別支援教育講演会 (市民文化センター) (講師:星槎大学大学院教育実践研究科 准教授 阿部利彦氏)</p> <p>8月 3日 第2回教育支援委員会 (こども発達支援センター)</p> <p>22日 前期発達支援スキルアップ連続講座 (工業高等専門学校) (~23日) (講師:愛媛大学 附属特別支援学校校長 吉松靖文氏)</p> <p>31日 第3回教育支援委員会 (こども発達支援センター)</p> <p>学校給食課の事業は、</p> <p>7月 11日 7月度栄養教職員会 (学校給食センター)</p> <p>19日 学校給食センター 1学期給食最終日</p> <p>25日 学校栄養教職員・調理員合同研修会 (市民文化センター) 平成28年度新居浜市学校給食研修会 (市民文化センター)</p> <p>28日 第2回新居浜市学校給食会理事会 (学校給食センター)</p> <p>8月 5日 平成28年度学校給食調理従事職員研修会 (西条市中央公民館)</p> <p>10日 第1回学校給食アレルギー対応検討委員会 (学校給食センター)</p> <p>18日 学校栄養教職員新規献立調理実習試食会 (泉川公民館)</p>
--	--

	<p>別子銅山記念図書館の事業は、</p> <p>5月 1日 第58回こどもの読書週間事業（～8月20日） 『新居浜市立図書館こども読書通帳マラソン』を 実施。優秀者に表彰状授与。（8月26日予定）</p> <p>7月 4日 ブックスタート事業 保健センター5カ月児検診 （・5日）</p> <p>8月 1日 ブックスタート事業 保健センター5カ月児検診 （・2日）</p> <p>○お話し会</p> <p>7月 6日 乳幼児（0歳～3歳）向けお話し会 （74名参加） 12日 幼児向けお話し会 （44名参加（園児含む）） 15日 小学生向けお話し会 （9名参加） 26日 幼児向けお話し会</p> <p>8月 3日 乳幼児（0歳～3歳）向けお話し会 9日 幼児向けお話し会 19日 小学生向けお話し会 23日 幼児向けお話し会</p> <p>○夏休み行事 =夏休みは図書館へ行こう！=</p> <p>7月23日 『図書館（ライブラリー）&来ぶらり～歴史を歩く～』 27日 『子ども一日図書館員～読書感想文にちょうせん！』第1回目（全2回） 28日 『夏休み子ども図書館探検隊と鉱物を使ってオリジナル万華鏡を作ろう』</p> <p>8月10日 『子ども一日図書館員～読書感想文にちょうせん！』第2回目（全2回） 25日 『図書館で学ぼう！お金のこと』 ～図書館・銀行タイアップセミナー～ （講師：（株）伊予銀行）</p> <p>○講座・講演会</p> <p>7月 6日 『あなたにも今すぐできる詐欺対策』 ～図書館・警察・銀行タイアップセミナー～ （講師：（株）伊予銀行、協力：新居浜警察署 25名参加）</p> <p>22日 『おはなし屋えっちゃんのおはなし会』 文部科学省委託事業「図書館でつなぐ本と人の輪</p>
--	---

	<p>支援事業」(【午前】子ども56名、大人57名参加、【午後】子ども17名、大人20名参加)</p> <p>○ロビー展示</p> <p>7月 4日 『みんなで愛媛マンダリンパイレーツ・愛媛FCを応援しよう!』(～18日)</p> <p>21日 『予防接種は受けられましたか?』(～28日)</p> <p>29日 『男女共同参画週間パネル展』(～8月4日)</p> <p>8月 2日 『戦争と平和を考える』原爆パネル展(～30日)</p> <p>『日和佐初太郎が見た昭和28年の四国国体』写真パネル展(～22日)(写真提供:松山明子)</p> <p>29日 『スマホが与える子どもへの害』(～9月8日)</p> <p>○テーマ展示</p> <p>7月 一般展示 『笑う 門には福来る』</p> <p>児童展示 『みつけて、しらべて、まとめてみよう』</p> <p>8月 一般展示 『戦争と平和』</p> <p>児童展示 『戦争ってなに?』</p> <p>○ケース展示</p> <p>7月 イエルク・ミュラー『絵本 変わりゆく風景』の7場面展示</p> <p>8月 「山の日」に関連した展示</p> <p>○特別展示(ブラウジングコーナー前)</p> <p>7月 職場体験の中学生達による『おすすめ本』紹介</p> <p>「追悼 日野原重明」の展示</p> <p>「第157回芥川賞・直木賞決定」の展示</p> <p>○夏休み期間中「臨時読書室」設置</p> <p>関教育長 伊藤委員 曾我部次長兼文化振興課長</p> <p>ただいまの一般報告で、何かご質問やご意見等はございませんか。</p> <p>文化振興課の8月20日の事業で、歴史講演会「謎とき本能寺の変と四国説」というものがございますが、初めて聞く題名の講演会なので、どちらの方の講演か教えていただきたいです。</p> <p>新居浜文化協会に加盟しております、新居浜郷土史談会というグループがございまして、そちらの団体の代表である吉本先生、高等学校のOBの先生だと思うのですが、その方による歴史講演</p>
--	--

	<p>会を開催する予定でございます。昨年度、文化協会が独自で協会員を対象にこの講演会を開いたところ、大変好評であったということで、今回文化協会の方が新居浜市として是非お手伝いしていただけないか、ということで講演会を開催することとなりました。大変好評で、市政だより等でしか公募してないのですが、お電話もまだかかっているような状況で、会場の関係で定員80名としているのですが、すでに50～60名ほどの申し込みをいただいております。</p>
伊藤委員	<p>ありがとうございます。</p>
関教育長	<p>それでは、いじめ、不登校等生徒指導関係に移ります。事務局から説明をお願いいたします。</p>
高橋次長	<p>お手元の生徒指導関係資料をご覧ください。 <資料に基づき説明> 1 不登校について 2 いじめについて 3 交通事故について 4 不審者情報</p>
関教育長	<p>ありがとうございました。ただ今の説明について、何かご質問やご意見等はございませんか。</p>
長野委員	<p>今、次長さんにご説明いただいた色別になっている不登校児童・生徒名簿（30日以上欠席）についてですが、家の中にもってどこもつながっていない子どもと、色々な関係機関とつながっている子どもというのは、同じ不登校でも何か意味合いが違うように私は思います。自分自身も不登校をなんとかしたいという気持ちが芽生えてきた子はやはりどこかにつながって少しずつ模索してという段階になっているのではないかなと思います。今、お話を聞かせていただいたら、そのような段階にいる子ども達もたくさんいるようで良かったと思いました。資料の中でも好転した子ども達には○を付けていただいて、少しずつ改善している子どもたちも増えているのだなと安心しております。先生方や関係機関の方々の努力に本当に感謝したいと思います。</p>

	<p>今言われたように、毎回というのはなかなか大変かもしれませんが、先ほど口頭でお話いただきましたような子どもたちについても差支えがなければ、どの子どもがこのような機関とつながっていますよ、というようなことが分かるような資料も見せていただくことができれば、この表の見方も変わってくるのかなと思いますので、ぜひよろしく願いいたします。</p>
高橋次長	<p>次回の資料作成の際でかまわないでしょうか。</p>
長野委員	<p>はい、よろしく願いいたします。</p>
関教育長	<p>他に何かございませんでしょうか。 それでは、その他連絡事項がございましたらお願いいたします。</p>
高橋次長	<p>お手元の平成29年度新居浜市標準学力調査の結果・分析という資料をご覧ください。 1ページ目を開けていただくと、どのようなかたちで調査を実施したかというような要領がございます。新居浜市独自でしているものです。本年度の4月13日、14日にそれぞれここに示されている学年で実施をいたしました。 1ページめくっていただきますと、平成29年度新居浜市標準学力調査同一学年の経年比較という表が出てこようかと思います。これは、例えば一番下に現小6のH27、H28、H29という表があると思いますが、4年生の時、5年生の時、6年生の時、というように見てもらえたらと思います。この表で学年が上がるにしたがって同じ子どもの学力がどのように推移しているか、ということがご覧いただけるとと思います。ただ、H28から調査会社を変えておりますので、H27からH28には大きな変化がございます。これは調査そのものが変わっているので一概には比較できないのですが、H28とH29は同じ調査会社のものを使っておりますので、それで比較していただけるとと思います。現小学6年生につきましては、国語についてあまり変化がなく、社会は6年生から入ってきますので比較できませんが、算数・数学は非常に良い状況になっており、理科については若干ポイントを伸ばしております。差引すると、昨年度とあまりは変わって</p>

ないのですが、教科のところで特徴が出てきているかと思えます。5年生ですと、昨年度と今年度を比べますと、特に算数・数学、そして国語で大きな伸びを見ることができますので、新居浜市では学力向上推進委員会を設置しまして、先生方ご自分の授業、取組を見ているわけですが、そうしたことも大きな成果になりつつあるのかなと思えます。

3ページをご覧ください。これは、それぞれの教科別にレーダーチャートで新居浜市と全国を一目瞭然で比較できるものと、それぞれの領域の正答率を示しているものです。100ですと全国平均と同じということをございます。これを見ると小学校の5年生、6年生ともに全国平均よりは良く、4年生については【伝統的な言語文化と国語の特質】の領域に今後力を入れていかなければいけないということが分かります。そうした具体的な内容については学力向上推進委員会の部会で検討していくかたちとなっております。次は社会となっております。こちらは6年生になって初めて受けるものとなっております。5ページ目は算数となっております。ここで目立つのは6年生の【数量関係】ですが、全国平均をかなり大幅に上回っておりまして、この領域は新居浜市の子どもの強みになっているのかなと思えます。4年生、5年生、6年生と見ていきますと年度につれて伸びてきておりますので、丁寧な授業作りができてきているのかなと考えております。次は小学校の理科となっております。5年生6年生となるにつれて伸びがみられるかと思えます。

次の7ページからの資料は、またお時間のある時にお目通しください。

11ページは中学校の新居浜市標準学力調査同一学年の経年比較となっております、小学校のものと同じ見方ができます。こちらでもH28から調査会社が変わっております。これで見えていきますと、右端の合計を見ていただくと分かりやすいと思うのですが、現在の中1については力をつけてきており、昨年よりも4ポイントも上がっていることが分かると思えます。現中2につきましては、若干下がってはおりますが、教科別に見ると算数については結構強みになっていることが分かります。現中3につきましては、どの教科もあまり変化はありませんが、国語はやや伸びていることが分かります。

12ページからは教科ごとのレーダーチャートとなっております

<p>関教育長</p>	<p>ます。お時間の関係もありますので、先ほどの小学校のものと同じような見方をしていただけたらと思います。社会科については、結構力が出ているのではないかなと思いますし、数学も強みになっていることが分かると思います。</p> <p>17ページからは、さらに細かいそれぞれの教科の分析が載っておりますので、お時間のある時にまたご覧ください。</p> <p>最後21ページですが、先ほど教育長報告でもございましたが、今やっております英語キャンプや、この夏休みの終わりにあるあかがね算数・数学コンテストなど、市教委主体の取組をしております。年々英語も数学も参加したい、チャレンジしたい、という子どもが増えているのは大変ありがたいことで子どもの意欲を喚起する一つの施策になっているのかなと思っております。</p> <p>以上でございます。</p> <p>何かご質問はございますか。</p> <p>他に何か報告等はございますか。</p>
<p>高橋学校教育課長</p>	<p>配布物一覧の5番目に書いてあります、平成29年度四国中学校総合体育大会参加者・チームということで一覧を配布させていただいておりますので、そちらをご覧ください。今年度は団体が3チーム、個人が18人でございます。なお、先ほど教育長一般報告でもございましたが、団体につきましては、団体一覧の2番目にあります角野中学校女子卓球8人が全国へ、個人につきましても6人の方が全国へ進まれるということで、計14人の中学生が全国出場ということになっております。</p> <p>もう一点資料はないのですが、口頭で説明させていただきます。議案書の2ページ教育長一般報告<教育長>の予定として記載されております、8月18日別子中学校寄宿舎建設工事安全祈願祭についてでございます。</p> <p>先月の定例会以降の別子中学校寄宿舎の進捗状況についてお話ししたいと思います。現在毎週水曜日に住友林業と打ち合わせをしております。基本設計の一部を修正後に8月2日付けで建築確認の手続きを完了、実施設計を完了したところという状況でございます。そして教育長一般報告にあるように8月18日に現場の方で安全祈願祭ということになっております。なお、8月21日から本格的に寄宿舎建設工事着手をする予定で、現在工程の作成</p>

<p>関教育長</p>	<p>をしているという状態でございます。</p> <p>資料がなくて申し訳ないのですが、口頭での説明とさせていただきます。</p> <p>以上です。</p> <p>何かご質問等ございませんか。</p> <p>では他に各課の方から何か報告はございませんか。</p> <p>それでは、次回の定例会の日程を決定させていただきたいと思 います。</p> <p>来月9月の第一木曜日は7日となりますが、いかがいたしまし ょうか？</p> <p>9月の定例会は、9月7日木曜日の15時より開催させていた だきます。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、これよりは非公開審議に入りますので、関係者以外 の方は退席をお願いします。</p> <p>委員会会議規則第13条の規定により署名する。</p> <p>委員名</p> <p>委員名</p>
-------------	--